

四電より最大20%安く

坊っちゃん電力 電力小売り参入へ

松山市山越5の新電力会社「坊っちゃん電力」が9日、来年から実施予定の電力小売りなどの事業概要を発表した。工場用の発電機を備える県内企業から直接買い取ったり、企業の余剰電力を売り買いくる電力取引市場から電気を仕入れ、県内の一般家庭や公共施設に四国電力の現行料金より最大で約20%安く販売する。県庁で記者会見した木村賢太社長は「電力の地産地消で地域経済の活性化を目指す」と抱負を述べた。

同社は、太陽光発電パネルの販売などを手掛ける「デンカシンキ」（同市）の子会社。来年4月の電力小売り全面自由化を見据えて今年5月に設立された。一般家庭との電力契約は、現在約500世帯から予約を受けており、契約数と売上額は2年後に2万世帯・24億円（シェア3.3%）、10年後に6万世帯・72億円（同10%）を目指す。

木村社長は「自社の事業や地元企業との取引を通じた雇用創出、県内の税収アップにも寄与できる」と話した。同社はガスやLEDなど他商品とセットで割引販売するほか、将来的には、電力使用量などに応じてスーパ



坊っちゃん電力の事業概要を説明する木村社長—県庁で

などで利用できるポイント制度の創設や、ネットを通じた契約先の高齢家庭の見守りなど、電力事業以外のサービス提供も検討している。

問い合わせは同社（089・911・5625、またはフリーダ